| 年　度 | 氏　名　・　所　属　機　関　・　業　績　題　目 |
|---|---|
| 第４８回<br>2012年（平24）10月 | 54.荒川 宜親 博士　名古屋大学大学院医学系研究科<br>分子病原細菌学／耐性菌制御学分野　教授<br>（業績の題目）病原細菌が獲得した新規薬剤耐性機構（16Sリボゾーマル RNA メチラーゼ）に関する体系的研究 |
| 第４９回<br>2013年（平25）10月 | 55.江崎 孝行 博士　岐阜大学大学院医学系研究科 再生分子統御学講座 病原体制御学分野 教授<br>（業績の題目）病原細菌の分類手法の開発とそれを利用した微生物の社会基盤の確立 |
| 第５０回<br>2014年（平26）10月 | 56.中谷比呂樹 博士　世界保健機関（WHO）本部<br>事務局長補　医学博士<br>（業績の題目）不健康と貧困の悪循環を断つための地球規模での公衆衛生学的アプローチ |
| 第５１回<br>2015年（平27）10月 | 57.瀬谷　司　博士　北海道大学大学院医学研究科免疫学分野　教授<br>（業績の題目）自然免疫の自己・非自己識別機構に関する研究 |
| 第５２回<br>2016年（平28）10月 | 58.山崎　晶　博士　九州大学生体防御医学研究所感染ネットワーク研究センター免疫制御学分野　教授<br>（業績の題目）結核菌受容体群の発見と宿主免疫賦活化機構の解明 |
| 第５３回<br>2017年（平29）10月 | 59.森　康子　博士　神戸大学大学院医学研究科附属感染症センター臨床ウイルス学分野　教授<br>（業績の題目）ヒトヘルペスウイルス 6B 受容体の発見とウイルス侵入機構の解明 |
| 第５４回<br>2018年（平30）10月 | 60.川口　寧　博士　東京大学医科学研究所<br>ウイルス病態制御分野　副所長 / 教授<br>（業績の題目）単純ヘルペスウイルスの増殖・病態発現機構の解明 |
| 第５５回<br>2019年（令1）10月 | 61.竹田　誠　博士　国立感染症研究所ウイルス第三部　部長<br>（業績の題目）急性呼吸器感染症ウイルスの病原性発現ならびに制御に関する研究 |
| 第５６回<br>2020年（令2）10月 | 該当者なし |
| 第５７回<br>2021年（令3）10月 | 62. 松岡 雅雄 博士　熊本大学大学院生命科学研究部<br>血液・膠原病・感染症内科学講座　教授<br>（業績の題目）ヒトＴ細胞白血病ウイルス１型の病原性発現機構の解明 |
| 第５８回<br>2022年（令4）10月 | 63. 山本 雅裕 博士　大阪大学微生物病研究所<br>感染機構研究部門　教授<br>（業績の題目）病原性寄生虫と宿主免疫系の相互作用の解明 |
| 第５９回<br>2023年（令5）10月 | 64. 佐藤　佳　博士　東京大学医科学研究所 感染・免疫部門<br>システムウイルス学分野　教授<br>（業績の題目）新型コロナウイルス変異株の特性の解明 |

# ２０２４年度 第60回
# 「小島三郎記念文化賞」推薦依頼

拝啓　春暖の候、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素は、本財団の活動に格別なるご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

本事業は、元国立予防衛生研究所長故小島三郎博士のご遺徳を永く記念すべく、１９６５年（昭和４０年）４月に創設され、その記念事業の一つとして「小島三郎記念文化賞」が設定されております。

本賞は、故小島三郎博士が広く関係をもたれていた病原微生物学、感染症学、公衆衛生学その他これらに関連した領域において学問的に顕著な業績をあげた方に贈呈するものであります。

つきましては、貴殿より次頁の審査規定をご参照の上、本賞受賞候補者のご推薦を賜りたくお願い申し上げます。

敬具

2024年３月吉日

公益財団法人 黒住医学研究振興財団

代表理事・理事長　渡邉 治雄

※公益財団法人 黒住医学研究振興財団の事務局は
東京都台東区台東 4-19-9　山口ビル７
TEL 03-5846-3504　FAX 03-5846-3514
ＵＲＬ　http://www.kmf.or.jp
Ｅ-mail：info@kmf.or.jp

# ２０２４年度 第60回
# 「小島三郎記念文化賞」審査規定

１．本賞は、「小島三郎記念文化賞」と称する。

２．本賞は、病原微生物学、感染症学、公衆衛生学その他これらに関連した領域において学問的に顕著な業績で、しかも我が国の文化に貢献したと思われる研究成果に対して贈るものである。

３．審査の対象は、原則として最近の業績であり、かつ、評価の定まったものとする。

４．本賞受賞候補者の審査は、本財団が委嘱した選考委員がこれを行う。

５．本賞受賞候補者の推薦は、本財団が関係領域の学識経験者に委嘱するのを原則とする。

６．本賞の審査は、毎年１回行う。

附則

（１）**推薦用紙は、本財団ホームページよりダウンロードしてご使用ください。(年度毎に改訂されますのでご注意ください。)**

（２）推薦用紙とともに、論文別刷などの資料を同封してください。

（３）締切りは2024年5月31日（金）消印とします。

（４）発表は９月末日に本財団ホームページに掲載し、受賞者・推薦者にその旨を通知いたします。なお、**贈呈式は10月25日（金）**です。

（５）送付先

(切り取ってご使用ください)

〒110-8408
東京都台東区台東4-19-9　山口ビル７

公益財団法人 黒住医学研究振興財団宛

本賞の第23回から第59回までの受賞者は次の方々です。
（第１回からの詳細は財団ホームページを参照願います。）

| 年　度 | 氏　名 | 所　属　機　関 |
|---|---|---|
| 第２３回<br>1987年（昭62）11月 | 27.須藤 恒久 博士 | 秋田大学医学部微生物学　教授 |
| 第２４回<br>1988年（昭63）10月 | 28.山西 弘一 博士 | 大阪大学微生物病研究所　助教授 |
| 第２５回<br>1989年（平元）11月 | 29 五十嵐 章 博士 | 長崎大学熱帯医学研究所　教授 |
| 第２６回<br>1990年（平2）11月 | 30.斎藤 和久 博士 | 国際医学情報センター　理事長 |
| 第２７回<br>1991年（平3）11月 | 31.倉田　毅 博士 | 国立予防衛生研究所　病理部長 |
| 第２８回<br>1992年（平4）11月 | 32.日野 茂男 博士 | 鳥取大学医学部ウイルス学　教授 |
| 第２９回<br>1993年（平5）11月 | 33.小澤　敦 博士 | 東海大学医学部　特任教授 |
| 第３０回<br>1994年（平6）11月 | 34.速水 正憲 博士 | 京都大学ウイルス研究所　教授 |
| 第３１回<br>1995年（平7）11月 | 35.佐藤 勇治 博士<br>36.木村三生夫博士 | 前・国立予防衛生研究所細菌部　室長<br>東海大学名誉教授 |
| 第３２回<br>1996年（平8）11月 | 37.宮村 達男 博士 | 国立予防衛生研究所ウイルス第２部長 |
| 第３３回<br>1997年（平9）11月 | 38.相川 正道 博士<br>39.本田 武司 博士 | 東海大学総合医学研究所　教授<br>大阪大学微生物病研究所　教授 |
| 第３４回<br>1998年（平10）10月 | 40.中村 信一 博士 | 金沢大学医学部医学科（微生物学）教授 |
| 第３５回<br>1999年（平11）10月 | 41.光山 正雄 博士 | 京都大学大学院医学研究科　教授 |
| 第３６回<br>2000年（平12）10月 | 42.内山 竹彦 博士 | 東京女子医科大学微生物学免疫学　教授 |
| 第３７回<br>2001年（平13）10月 | 43.尾身　茂 博士 | WHO西太平洋地域　事務局長 |
| 第３８回<br>2002年（平14）10月 | 44.品川 森一 博士 | 帯広畜産大学公衆衛生学　教授 |
| 第３９回<br>2003年（平15）10月 | 45.橋爪　壮 博士 | (財)日本ポリオ研究所　理事長 |
| 第４０回<br>2004年（平16）10月 | 46.山口 惠三 博士 | 東邦大学医学部微生物学講座　教授 |
| 第４１回<br>2005年（平17）10月 | 47.渡邉 治雄 博士 | 国立感染症研究所　副所長 |
| 第４２回<br>2006年（平18）10月 | 48.西山 幸廣 博士 | 名古屋大学大学院医学系研究科微生物・免疫学講座ウイルス学分野　教授 |
| 第４３回<br>2007年（平19）10月 | 49.馬原 文彦 博士 | 馬原医院　院長 |
| 第４４回<br>2008年（平20）10月 | 50.岡本 宏明 博士 | 自治医科大学感染・免疫学講座<br>ウイルス学部門　教授 |
| 第４５回<br>2009年（平21）10月 | 51.伊藤　亮 博士 | 旭川医科大学医学部寄生虫学講座　教授 |
| 第４６回<br>2010年（平22）10月 | 52.藤田 尚志 博士 | 京都大学 ウイルス研究所　教授 |
| 第４７回<br>2011年（平23）10月 | 53.吉開 泰信 博士 | 九州大学生体防御医学研究所　教授 |

## 第31回研究助成金贈呈者の研究課題一覧（2023年度）　参考

| 氏　名 | 所　属 | 研　究　課　題 | 選考対象 |
|---|---|---|---|
| うと けんいち<br>生戸 健一 | 神戸大学医学部附属病院<br>検査部 臨床検査主任技師 医学博士 | 血中循環エクソソームによるANCA関連血管炎の新規バイオマーカーの開発 | 臨床<br>免疫学 |
| おかだ こうき<br>岡田 光貴 | 京都橘大学<br>健康科学部臨床検査学科<br>専任講師 人間健康科学博士 | 生体試料のｐH 変動を指標とした潰瘍性大腸炎の新たな重症度判定法の構築 | 臨床<br>化学 |
| おがわ けいこ<br>小川 恵子 | 北海道立衛生研究所感染症部<br>細菌グループ主査（細菌感染症）獣医学博士 | 北海道内で分離されたヒト由来薬剤耐性志賀毒素産生性大腸菌及び赤痢菌の分子疫学解析 | 感染危機管理 |
| おぎはら しんじ<br>荻原 真二 | 東邦大学医療センター<br>大森病院　臨床検査部<br>臨床検査技師　医学博士 | 近年新たに出現した高病原性MRSA ST22-PT cloneの病原性解析 | 臨床微生物学 |
| おの ゆうすけ<br>小野 裕介 | 札幌東徳洲会病院医学研究所　ゲノム診断研究部部門長・主任研究員　農学博士 | 膵管内乳頭粘液性腫瘍（IPMN）関連膵癌の超早期診断を目指して：KRAS-GNAS遺伝子変異特異的な膵組織発現プロファイルの検出を目指したリキッドバイオプシー | 分子<br>生物学 |
| かさまつ あゆ<br>笠松 亜由 | 国立感染症研究所感染症免疫センター　14室（国際協力室）<br>研究員 | 結核高蔓延国におけるゲノムバイオマーカーを用いた結核治療に伴う肝障害の発生とそのリスク因子に関する国際共同研究 | 疫学 |
| きくち まさふみ<br>菊地 正史 | 東北大学大学院<br>薬学研究科<br>准教授　薬学博士 | イオン量調節技術を用いたLC/ESI-MS/MSによる薬物のハイスループット定量法の開発 | 臨床<br>化学 |
| くすはら はじめ<br>楠原 一 | 三重県保健環境研究所<br>衛生研究室　微生物研究課<br>主幹研究員　獣医学博士 | 特定の新型コロナウイルス感染症集団事例を対象とした長期間の血清疫学調査 | 疫学 |
| くらしげ たかし<br>倉重 毅志 | 呉医療センター臨床研究部<br>脳神経病態学研究室<br>室長　医学博士 | 免疫組織化学を利用した筋萎縮性側索硬化症の生検病理診断法の開発 | 人体<br>病理学 |
| ごとう ひでき<br>後藤 秀樹 | 北海道大学病院<br>検査・輸血部（副部長）<br>講師　医学博士 | マルチカラーフローサイトメトリー法を用いた正常T細胞ならびにキメラ抗原受容体T細胞（CAR-T）の細胞疲弊評価法の開発と臨床応用 | 臨床<br>免疫学 |
| こんの さおり<br>紺野 沙織 | 信州大学医学部附属病院<br>臨床検査部<br>臨床検査技師　医学博士 | 小児疾患におけるアレルギー性輸血副反応と食物アレルギーの遺伝素因との解析 | 疫学 |
| さだもと そうた<br>定本 聡太 | 国立感染症研究所<br>真菌部<br>研究員 医学博士 | 真菌細胞壁多糖の違いがグロコット染色の染色性に与える影響 | 人体<br>病理学 |
| すぎやま ゆういちろう<br>杉山雄一郎 | 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院<br>小児科　医長　医学博士 | 母乳による口腔内および糞便細菌叢の構造・機能変化が極低出生体重児に及ぼすMRSA保菌・合併症への影響 | 感染危機管理 |
| すずき たかと<br>鈴木 崇斗 | 福島県立医科大学附属病院<br>検査部<br>医療技師　医学博士 | Tｃ-MEPを用いた脊椎・脊髄手術における術後神経機能回復の予後予測法の確立 | 一般・<br>生理学 |
| たかまつ ゆうき<br>高松 由基 | 長崎大学熱帯医学研究所<br>ウイルス学分野<br>准教授　医学博士 | 末梢血単核細胞を用いたデング熱重症化機構の解明 | 感染危機管理 |
| なかむら ひであき<br>中村 秀明 | 佐賀大学医学部附属病院<br>輸血部<br>助教　医学博士 | クローナリティー解析を用いたアグレッシブ成人T細胞白血病・リンパ腫への進展リスク評価法の確立 | 分子<br>生物学 |
| のりづき ちひろ<br>法月 千尋 | 修文大学　医療科学部<br>臨床検査学科<br>助教　医学博士 | メタロベータラクタマーゼ産生緑膿菌およびアシネトバクター属菌の新規スクリーニング方法の開発 | 臨床微生物学 |
| ひろせ かつとし<br>廣瀬 勝俊 | 大阪大学大学院医歯学研究科<br>顎顔面口腔病理学講座<br>助教員　歯学博士 | 脈管異常遺伝子パネル検査の社会実装を目指して | 分子<br>生物学 |
| まつだ まさと<br>松田 将門 | 福島県立医科大学<br>保健科学部臨床検査学科<br>助教　医学博士 | 抗凝固能と向凝固活性のバランスに着目した抗凝固療法の包括的モニタリング法の開発 | 検査<br>血液学 |
| もり だいすけ<br>森　大輔 | 九州大学病院　医療技術部<br>臨床検査部門<br>副臨床検査技師長　医学博士 | マレーシアサバ州におけるダニ媒介感染症の網羅的な調査 | 疫学 |
| やまもと さちお<br>山本佐知雄 | 近畿大学薬学部<br>創薬科学科<br>講師　薬学博士 | 高速全自動マイクロチップ電気泳動システムによる糖タンパク質糖鎖を指標とした新規臨床検査法の開発 | 臨床<br>化学 |

総申請者数　182名　　研究助成金総額　1,835万円(21名)

所属機関長各位

## 2024年度 研究助成のご案内について

拝啓　時下ますますご隆盛のこととお慶び申し上げます。
平素は、本財団の活動に格別なるご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。
さて，ご承知の如く本財団は、研究助成事業と顕彰事業を2本の柱とする事業を展開しております。

このたび2024年度の研究助成事業として「臨床検査、衛生検査及びこれらに係る基礎医学に関する調査並びに研究」の領域でより優れた学術研究・業績テーマに対して研究助成を行います。また、2022 年度より本財団創立30 周年を記念いたしまして、期限付ではありますが、新たな対象領域にとして「感染危機管理」を設けております。

早速ながら、本年度の研究助成金申請書を作成しましたので、お届けいたします。ご多忙中のところ、恐縮ではございますが貴機関の関係者にご伝達の上、2024 年 5 月 31 日金曜日（当日消印）までに、申請者ご自身から本財団宛に申請くださいますようお手配の程、ご案内かたがたお願い申し上げます。

敬具

2024年3月吉日

公益財団法人 黒住医学研究振興財団

代表理事・理事長　渡邉 治雄

※公益財団法人 黒住医学研究振興財団の事務局は
東京都台東区台東 4-19-9 山ロビル7
TEL 03-5846-3504　FAX 03-5846-3514
URL http://www.kmf.or.jp　E-mail：info@kmf.or.jp

公益財団法人 黒住医学研究振興財団
2024年度 第32回 研究助成金募集要項

1．研究助成事業の対象

研究助成は、臨床検査、衛生検査及びこれらに係る基礎医学に関する調査並びに研究で、より優れた学術研究・業績を研究助成事業の対象とし、若手の育成（原則として50歳以下）を主眼としています(詳細については本財団ホームページ「よくあるご質問」をご参照ください。)。

2．応募資格

医学関連の大学及びその他の教育機関、研究所並びに医療機関等において、本研究助成事業の対象領域において調査、研究に積極的に取り組もうとする個人とします。

ただし、大学教授及び国公私立研究機関の部長並びにこれらに準ずる職位の方は除きます。

3．対象領域

① 臨床化学　② 分子生物学（医学）　③ 臨床微生物学
④ 臨床免疫学　⑤ 検査血液学　⑥ 人体病理学
⑦ 疫　　学　注1　⑧一般・生理学　⑨ 感染危機管理　注2

の9つの領域とします。

注1：臨床検査・衛生検査についての集団(mass)を対象に扱う研究
注2：次なるパンデミック対応、バイオリスク管理、施設内感染防止、感染制御、マスギャザリング対策等

4．募集期間

2024年3月15日（金）から2024年5月31日（金）までとします。
なお、郵送の場合は当日の消印まで有効です。

5．研究助成件数及び研究助成額

研究助成額は、対象領域①～⑧は1件100万円を限度とし、助成件数は15件以上とします。
また、対象領域⑨は1件150万円を限度とし、助成件数は2件ないし3件とします。

6．応募方法

所定の申請書に記入し、本財団 研究助成金選考委員会 宛に送付してください。
なお、提出部数は「原本と複写2部」の合計3部を送付してください。

☆申請書は必ず公益財団法人黒住医学研究振興財団のホームページからファイルをダウンロードしてご使用ください(年度毎に改訂されますのでご注意ください。)。
ＵＲＬ　http://www.kmf.or.jp/

7．審査方法及び通知

本財団の委嘱する審査委員が9つの対象領域ごとに審査したあと、選考委員会で選考審査を行い、理事会で研究助成の対象を決定します。その結果は、9月末日に本財団ホームページに掲載し、受贈者にその旨を通知いたします。

8．研究助成金の贈呈

2024年10月25日（金）の小島三郎記念文化賞贈呈式にあわせて、研究助成金を贈呈する予定です。

9．受贈者の研究助成金受領後の義務

以下の事項を研究助成金受領後(贈呈式後)、1年以内に本財団事務局へ提出していただきます。

① 研究期間は、原則として研究助成金受領後1年間とし、その研究結果について本財団指定様式にて2,000字以内で報告書を作成すること。1年間で終了しない場合は、中間報告として研究・会計報告書を作成すること。
（報告書は年報・本財団ホームページ・研究業績集に掲載させていただきます。）

② 会計報告については本財団指定様式にて作成すること。

なお、受贈者が研究結果を発表する口頭発表論文発表等には本財団の研究助成を受けた旨の附記(英字表記の場合は、「KUROZUMI MEDICAL FOUNDATION」)を必ずしてください。

※「研究報告書」の本財団事務局への提出が確認できない場合には、当該研究課題について贈呈した研究助成金の贈呈決定を取り消し、受領した助成金の返還を求めるとともに、所属する研究機関の名称等の情報を公表する場合があります。

10．申請書類の提出先

〒110－8408
東京都台東区台東4－19－9 山口ビル7
公益財団法人 黒住医学研究振興財団 研究助成金選考委員会 宛

(問い合わせ先)

公益財団法人 黒住医学研究振興財団 事務局
ＴＥＬ　03-5846-3504
ＦＡＸ　03-5846-3514
E-mail　info@kmf.or.jp

附記

○ 所属機関長は、大学長、研究所長、病院長及びそれに相当する職域の長であることが必要となります。
○ 応募の書類は、一切返却いたしません。
○ 贈呈される助成金には、大学等の間接経費(事務処理経費)は含みません。